

# 花

# センターだより

# 緑

2010・1  
11号

(財)兵庫県園芸・公園協会 花と緑のまちづくりセンター

兵庫県の風土を活かした庭づくり

## 第3回 狭小地の前庭植栽について

兵庫県立淡路景観園芸学校

主任景観園芸専門員 能勢 健吉

わが国では従来から塀を設け、閉鎖的な前庭の作りが多かった。日本のように狭小住宅や集合住宅の発達したヨーロッパの都市での前庭部分の工夫はどうであろうか。

狭小住宅では、それぞれの家屋デザインや塀を至近距離で見せる結果となり、個性を演出した手法はそのまま意匠が突出して見える結果となる。建造物が目立つため勝手気ままなデザインが続くと乱雑な街並みとなる。このような街並みで、デザインの統一ルールがあれば調和のとれた街並みができる。景観条例や生垣助成などの制度がこの目的達成のために設定されている。あたりまえのことだが植栽デザインでまちなみの調和を図ることが大切であろう。調和を図るため、まず建造物の前に視覚的な緑量の確保を考えてみる。狭小地では樹木を育てづらく、それぞれの植物材料を至近距離で立体的に見せる手法が一つの解決策となる。幾つかの植栽手法があるが代表的なものを紹介する。



壁面に誘引したエスパリア

一つは平面的に樹木等を仕立てて見せるエスパリアである。この仕立て方は樹木を壁面近くに植え付け、枝ぶりがデザイン上重要になるので針金などで誘引し、枝の形を整える。樹形を作るため、苗木から育てるのが一般的であり、前面に飛び出してくる枝は剪定する。木造住宅などでは家屋を傷めるおそれがあるので鉄筋コンクリート建造物やブロック塀などで活用したい。エスパリアに向く植物材料としてはブドウ、イチジク、リンゴなどの果樹が代表的である。

次にツル性植物の利用があげられる。ツル性植物はフェンスや建造物、樹木の形に沿って誘引する。生育が旺盛になるといろいろな方向に伸長するので、生育期はこまめに誘引・整姿し、荒れて見えないように心掛ける。ツル性植物材料としては、ヘデラ、オオイタビ、ナツツタ、ピナンカヅラ、テイカカヅラなどがあげられる。また、花が観賞できるものとしてツルバラ、クレマチス、ハゴロモジャスミン、カロライナジャスミンなどがある。



前庭を飾るカロライナジャスミン

## 2009ひょうごまちなみガーデンショー in 明石 花と緑のまちづくりフォーラム報告

2009ひょうごまちなみガーデンショー in 明石が昨年10月3日～12日にかけて明石公園及びその周辺において開催されました。明石商工会議所で行われた花と緑のまちづくりフォーラムには、花緑活動をされている方々が県下各地から200名以上集まり、会場が埋め尽くされました。

### 基調講演 まちなみを考えた庭づくり —南フランスの田舎まちを訪ねて—

ガーデンアートスタジオ代表 中野 正生 氏

#### ○講師プロフィール

昭和42年京都大学農学部卒業。

平成9年ガーデンデザインショップ「ザ・シーズン」設立。平成14年にガーデンアートスタジオを設立。一級造園施工管理技士、一級土木施工管理技士、二級建築士、ジャパングーデンデザイナーズ協会正会員。各種講座の講師として活躍中。



1990年の大阪花博を契機に日本ではガーデニングブームが始まり、全国花のまちづくりコンクール（提唱 農林水産省・国土交通省）と相まって、全国各地で住宅地や公共施設に花を採り入れる機運が高まってきました。

しかし日本に先んじること30年、フランスですでに花のまちなみコンクールをスタートさせ、花マーク評価基準に従って全国レベルで1～4ツ花を与える制度を定着させました。この花のまちなみづくりが発展したのは次の3つが大きな要因となっています。1つは4ツ花制度が景観に対する意識を向上させる大きな動機となり、街と住民の大きな誇りと



レマン湖畔イボアール村の住宅街  
アイビーゼラニウムとツル性植物の組合せが  
花をより引き立てている。



公共施設の模様花壇  
ペゴニアの色違いの使い方ラインを強調している。  
(ブルゴーニュ地方マコン市)

なっていること。2つは技術的なサポート、予算措置、育成保全、メンテナンス等行政側と住民側が一体となって取り組んでいること。3つは4ツ花を貰うとそれを維持していくためにヤル気が出てさらにグレートアップしていくこと等であります。またコミュニティ(市町村)にとっても観光産業及び花き園芸産業の発展という経済的効果も見過ごせないのです。

それでは日本のまちなみを考えた時にどのように取り組んで行けば良いのでしょうか。日本には日本庭園に見られる樹木中心の文化、奥ゆかしさを美とする国民性、高温多湿の気候条件があり、行政側に



とっても専従者の確保や予算の割り当て等の課題があるので、これらをふまえた上で日本の風土に合った植物を選定してまちなみを考えていくことが大切だと思います。フランスの住宅地で一番多く使われていた花はアイビーゼラニウムですが、日本の気候では写真のように綺麗に咲かせるのは難しいのです。また行政側には、どちらかといえば引っ込み思案の居住者のコミュニケーションづくりまで踏み込んだソフト面でのケアや、小さい規模でのまちづくりコンクールの実施等で動機づけることも一考の余地があるのではないのでしょうか。

またその他に、今話題のLOHAS(健康で持続可能な生活)の一環としてローメンテナンスの植物を使った庭づくりをお勧めします。常緑宿根草(特にハーブ類等の癒しの効果のあるもの)、成長の比較的遅い虫のつきにくい植物を中心に選択し、更に手間暇のかけられる人はコンテナなどで一年草を楽しんだらいかがでしょうか。

最後に使いやすい常緑宿根草、地被類の具体例を挙げておきますので参考にして頂ければ幸いです。

**常緑宿根草**      ゼラニウム、      クリスマスローズ、<sup>①</sup> アガパンサス、      ローズマリー、      ラベンダー、  
ブルンパーゴ、      シロタエギク、      ヘリクリサム、      エリゲロン、      ブラキカム、  
ペロニカ 'オックスフォードブルー' など

**常緑宿根地被類**      セダム類、      ヒメツルソバ、      ヤブラン、      セキショウ、      フッキソウ、  
タイム、      ラミウム、      ヤブソテツ、      ヒペリカム、      アイビー類、  
バーハーバー、      ミヤマハイビヤクシン、      ワイヤープランツ、      ハツユキカズラ など

**事例発表** 花緑活動を活発に行い、様々な賞に輝いた団体・個人の方が熱のこもった活動報告をされました。

## ①花・みなの ポーアイクラブ M'sガーデン

代表 一居 喬

私たちの会は、2001年10月に発足しました。現在女性9名、男性4名の会員(平均年齢66.3歳)が、神戸市みなと総局の管理地であるポートアイランド内の中央緑地約4,000㎡の花壇で、「まちの美緑花ボランティア活動」協定※のもとに活動しています。

全く素人の集団ですが、「ガーデニングの4S-整理、整頓、清潔、清掃-」を心がけ、自発的で楽しいガーデニングをめざしています。

この方針に基づき、みなと総局にご支援をいただきながら、管理地内の大掃除を実施。下の写真のように様変わりしました。また会員の提案で荒れ地を「日本庭園風」に改善することもできました。これからは、4Sに「躰、センス、創意工夫」の3Sを加えた7Sで活動できるよう力を合わせていきたいと思っています。

※地域住民団体などが、身近な公共空間である公園や街路樹・花壇などの世話を地域コミュニティ形成の場として活用していく神戸市の制度



<整理・整頓前の管理地>



<整理・整頓後の管理地>

園芸道具等の整頓、除草、花や低木の整理、剪定等を行った

## ②正覚坊保育園

園長 片山 睦子

私たちの保育園は加東市にあり、「幼児教育を考える手をつなぐ花の会」（昭和51年発足）に当初より参加しています。そこでの教え、～よい保育をしましょう、美しい花を育てましょう、素晴らしい環境づくりをしましょう～ の実践を子どもたちと保育者が一緒になって取り組んでいます。

播種・定植・種採りを年2回のサイクルで春花や夏花を手作りで育てています。失敗もありますが、その成長に一喜一憂し、見事に咲いた花に拍手喝采です。パステルカラーを基調に濃淡色を配し、季節感豊かな花壇づくりを目ざしています。そして何よりも花に心を寄せ、花の命を大切に管理します。こうして育てた四季折々の花々が咲く園庭で子どもたちは花とすばらしい出会いをします。



潤いと豊かさのある環境を作る

色や形やにおいを楽しみながら遊び、花の命のめぐりと触れ合う体験を通して、人の生命、自分の生命の尊さを感じる豊かな心、そして花のように優しくて明るい子どもに育ってくださることを願い、花いっぱい環境づくりに取り組んでいます。

「継続は力なり」と、花と緑のコンクールに20年余り応募を重ね、2009まちなみガーデンショーでの県知事賞のほか名誉花壇賞等数々の賞を頂いています。



花と子どもたちのすばらしい出会い

## ③ガーデン苅尾

代表 苅尾 希美子

15年前、時間に余裕のできた花好き仲間8人が集まって、たつの市新宮町で花壇づくりを始めました。敷地が300㎡とたいへん広いこと、また背景の自然のやまなみが豊かなことを活かす花壇づくりを心がけています。背景に溶け合うように、アーチ、山にあるカヅラを使用したオブジェ、看板、水車など手づくりの良さを伝えられるよう毎年思案しています。

種や球根から育て、植え替え作業を皆で協力して行います。作業終了後はお客様とともにコーヒータイムを楽しんでいます。



作業風景ーオブジェを背景にー



遠足で訪れた子どもたち。ちょっぴり緊張

より多くの方々に美しい花々を楽しんでもらうために、同窓会の二次会、老人会、婦人会、デイサービスの方を招いたり、保育園児や幼稚園児の遠足に利用してもらったりしています。自由ノートを置き、来訪者に感想を書いてもらい、花壇づくりの励みにしています。

またボランティア活動として2006年から播磨科学公園都市の光都プラザに植栽をしたり、今年度から兵庫県立西播磨総合リハビリテーションセンターで植栽や寄せ植え、手づくり葉書の作成などを行っています。入院患者の皆さんの安らぎになればうれしいです。

## ④豊岡市但東町 「但馬発 花に音楽を!!」

中谷 邦子

主人がのんびり田舎暮らしをしたいと言い出し、2002年3月に神戸から誰も知り合いのいない但東町に移住して7年半になります。専ら園芸は私の担当で、庭の配置、芝張り、アーチ、木製プランター、ベンチ作りなど楽しんでいます。プランターやメールボックスには、花や景色をトールペイントし、庭のポイントにしています。冬

は積雪80cm程になることがありますが、宿根草中心の庭は春に元気に芽吹いてくれます。いつの頃からか春になると庭を見に来られる方が年々



2009まちなみガーデンショー  
最優秀明石市長賞受賞の額縁型プランター

増え、2007年に「豊岡オープンガーデンショー」に参加以来、京阪神、但馬全域から多くの方が来て下さいます。寄せ植え、ハンギング教室、木製プランター作り、保育園や隣保の花壇づくり、庭のプランニングの相談などを通じて人の輪がどんどん広がり嬉しく思い

ます。ウッドデッキでは、庭に来られた人たちと合唱やハーモニカ演奏で、花と音のコラボを楽しんでいます。

「2009ひょうごまちなみガーデンショー」出展の額縁プランター2作は、廃棄処分寸前の障子の棧を利用して額とイーゼルを作り、ペイントし、オルゴールを取り付けました。まさに「花に音楽を!!」です。曲は「千の風になって」と「世界に一つだけの花」です。嬉しくて何度も聞き返しています。花も人も活き活きです。是非お試しください。



花木と手づくり作品のハーモニー

## ⑤アルファグリーンネット (AGN) 西淡支部

代表 武田 里美

私たちの会は「アルファグリーンネット (AGN)」の支部として平成12年に発足しました。12名のメンバーそれぞれがグループを持ってそのリーダーとして活動し、支部全体の活動にも参加しています。

まず地域の子どもたちと南あわじ市うずしおライン近くに「里山基地」を作り、私たちの活動拠点にしています。そこは湧水と竹林、春には山桜、コバノミツバツツジが群生する山々に囲まれ、時間が止まったような空間です。竹を組んで高さ十数メートルのツリーハウスを作り、そこから天空回廊を巡らせています。



里山基地での「天空茶会」

毎月第2日曜日が活動日で、大人も小さな子どもも野外クッキングや工作などいろいろな自然体験を



竹の切り出し

楽しんでいます。伐り出した竹で切り出しナイフを使ってお椀とお箸を作り、そうめんを流す樋(とい)もみんなで作成させ、そうめん流しを楽しみました。餅つきもします。あわじオープンガーデン開催時には「里山基地よりありがとうコンサート」や天空茶会を開催しました。

また他に旧西淡町の花づくりグループの代表で構成された「花づくりネットワーク西淡」のメンバーとともに、南あわじ市の花づくりグループに配布する花苗の3分の1を育苗しています。

みなさん、里山基地へどうぞ遊びにいらして下さい。

### 花ウメの冬季剪定

**Q** 例年、12月上旬に花ウメの剪定を行っていますが、枝を20cm程度に切りつめるため、花の数が少なくなってしまうようです。花を十分楽しめる剪定方法を教えてください。

**A** ウメの花は、強く伸びた徒長枝にも先端付近にも多くの花をつけます。12月に剪定してしまうと花を楽しむことができません。葉芽のふくらむ3月中旬まで剪定は可能なので、開花後、芽のふくらむ頃に本格的な剪定をすると、多くの花を長く楽しむことができます。

開花前の剪定は、枯れ枝や見苦しい枝の整理に留めます。花が終わった時点で、徒長枝、元気すぎる強い枝、衰弱した弱い枝など不要な枝を根本から切り取ります。次に、残った長い枝を20cm程度に切り取ります。将来の主枝としたい枝は30~40cmと長めに残します。勢いを弱めたい枝は紐などで下に引くと樹勢を弱めることができます。紐引きで枝の配置を調節することもできます。

開花後の剪定では、3月からウメスカシクロハが葉芽を夜間に食害するので、スミチオン1000倍液を芽だけでなく、枝幹の隅々までていねいに散布することが大切です。

### セントポーリアの冬季管理

**Q** セントポーリアを室内に取り込んで育てていますが、葉に円形の薄緑の斑点ができてきます。見苦しいのでどのようにしたらよいでしょうか。

**A** セントポーリアは、東アフリカのタンザニアで原種のイオナンタが発見され、その後多くの種類が、タンザニア北部とケニア南部、標高1900mの高地から30mの低地において次々と発見され、これらの交配により1万品種を超える多くの品種が作出されています。園芸品種の大半は、人間の快適温度とされている20~24℃が生育適温で、10℃以下の低温、28℃以上の高温が苦手です。とくに冬の低温期にはワーデアンケースなどで保温するか、発泡スチロールの箱に夜だけ封入して保温します。また、灌水に使用する水は、湯などを加え、20℃程度の温度にします。水温が低いとお尋ねのような斑点が葉に現れ、美観を損ねます。これは生理的な障害でリングスポットと呼んでいます。



リングスポット症状

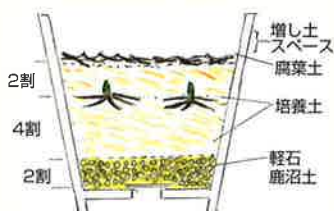
## ●●● 季節の園芸相談 ●●●

相談員 山田 益男

### 日本サクラソウの植え替え

**Q** 親の残した日本サクラソウ、植え替えはどのようにすればよいか教えてください。

**A** 日本サクラソウは、日本に自生するサクラソウから江戸時代に品種改良が進み、多くの品種が現代に伝えられています。植え替えは2月で、株を鉢から出し、土を払い、根株を露出させて、ひと芽ごとに爪先で折り分け、枯れた茎や根茎を取り除きます。鉢は5~6号の黒色の塗鉢や信楽焼褐色鉢を使用し、伝統的な流儀に従えば、鑑賞鉢は立派な大きい芽を持った根株を4芽寄せ植えにします。小さな芽は、養成鉢として5~6芽を植えます。用土は、鉢穴にネットを入れ、2割粗砂、次に培養土4割、根株を広げその上に2割培養土を入れ、植え付け完了。その上に腐葉土を少し入れ、マルチングして凍結や乾燥防止を図り、3月中旬頃芽が動き出せばマルチははずします。培養土は、関西地方では、腐葉土5、畑土(庭土、まさ土)3、砂(川砂、山砂)2の混合土、畑土の無い場合は、腐葉土6、砂4でもよいでしょう。



### \*\* 園芸相談コーナー \*\*

花と緑のことならなんでもご相談下さい。

Tel 078 (918) 2405  
10:00~16:00

Fax 078 (919) 5186

Eメールアドレス: info\_midori@hyogopark.com

### \*\* おしらせ \*\*

花と緑のまちづくり講演会

みんなで作ろう!まちのガーデン  
1本の苗木から……

日時:平成22年3月15日(月) AM10:20~

場所:阪急(宝塚)エスプリホール  
宝塚大劇場3階

講師:石原 憲一郎(花と緑のまちづくりセンター長)  
本間 和枝(宇治市植物公園 園長)

参加費:無料(定員250名先着順)

申込先:遠藤 禎子(宝塚オープンガーデンの会代表)  
Tel&Fax 0797 (87) 0761